

# I. 「学生による授業評価2011」の概要

## I-1. 目的

本学では、学生の授業に関する理解の状況や満足感等を把握することによって、教育内容や教授方法及び学習支援システム等の改善に資することを目的とし、平成17年度より自己点検・評価の一環として学生による授業評価を導入している。第7回目となる今年度は、2011年度及び2010年度2学期に新規開設した科目を評価の対象とした。

以下、その量的分析結果及び自由記述の内容を報告する。

学生による授業評価は、個々の科目に対する学習者の視点からの具体的で詳細なフィードバックを得ることを企図して実施される調査である。その主な目的は、次の通りである。

- (1) **個別授業科目の改善支援**……個々の科目を受講者がどのように学習し、どう評価しているかを項目ごとに把握することにより、次の科目改訂等に際して改善すべき点の発見を容易にするような資料を提供する。
- (2) **カリキュラム全体の改善支援**……コースまたは領域、プログラム(群)における、より効果的なカリキュラム構成や水準のバランス等を検討する上での有効な資料を提供する。
- (3) **認証評価に関わる資料提供**……大学に対して社会的に強く求められている定期的な認証評価に際しての重要な資料を提供する。

しかし、一般の大学とは異なり、放送大学においては授業評価の結果をそうした目的にストレートに用いることが必ずしも容易ではない。そこには、次のようないくつかの放送大学に固有の条件と特殊事情があり、結果の利用には一定の留保が求められることになるからである。

第1に、放送大学では、収録された放送授業を4年間継続して放送する原則になっていることである。そのため、たとえ授業評価で改善点が明確に示唆されたとしても、即座にそれを改善する(つまり、評価の次年度に改訂版を収録する)ことが非常に難しいのである。

第2に、放送大学の主任講師は客員であることが多く、その場合、必ずしも科目の改訂を同一教員がするとは限らないことである。主任講師が交代すると、科目の内容や構成が変わってしまう場合があるため、前科目に対する評価は往々にして参考程度の意味しか持たないことになるのである。

第3に、放送大学は公開大学であり学部には入学試験がないこともあって、他の一般大学に比して学生集団は多様で流動的であり、そこに一定のまとまった特性を求めることは難しい。授業評価で得られた結果も他の大学よりはるかに分散が大きいことが容易に予想される。したがって、たとえ結果を得たとしても、どの層の学生をターゲットとして授業改善をしていったらよいのか、必ずしも明確ではないのである。事実、過去の数次にわたる授業調査で毎回見られることであるが、例えば、「放送授業と印刷教材はできるだけ同一の内容に」と「放送授業と印刷教材の内容が同じでは別の教材である意味がない」とは、常に同じくらい多く書かれる意見である。もちろん、そうした意見の平均や中間点を採用してもあまり意味がないことは言うまでもない。

そして、第4に、放送大学は教員の5年任期制を採っており、再任のためには5年ごとの内部審査の通過が必要とされることである。そのため、個々の教員の評価にストレートに結びつきがちな授業評価の実施に対しては、当初より慎重論も決して少なくなかった。したがって、上述した第3の特性を持つ授業評価に関しては、授業改善あるいはカリキュラム改善のためにのみ結果を用いる、という確たる合意が必要とされるのである。

## I-2. 構成と内容

今回の学生による授業評価調査は、大きく分けて3つの部分からなっている。

第1は、当該科目への取組姿勢、放送授業、印刷教材、単位認定試験等について4段階で評価する評定尺度質問である。その内容は、①当該科目にどれだけ熱心に取り組んだかを示す回答者自身の自己評価と、②授業の難易度・分量、放送授業、印刷教材、通信指導・単位認定試験および全体的に見た授業評価の2つに分かれる。

第2は、当該科目のよかった点、改善すべきだと感じた点、本学の教育システム全般への意見に関する質問であり、自由に記述してもらう形態を採った。

そして、第3は回答者の属性に関する質問である。

実際に使用した調査票については184、185頁を参照されたい。

## I-3. 方法と期間

評価の対象としたのは、平成23年度第1学期に本学で開講していた放送授業のうち、今年度開設した科目（開講1年目の科目）、学部54科目、大学院15科目、計69科目である（表1-1参照）。またこのような選定システムにすることで、開設後4年間継続して放送することとされている全科目が、開講期間中に必ず1回授業評価の対象とされることになる。

表 1-1 コース・プログラム別の評価対象科目数および有効回答数

【学部】

コース	科目数		有効回答	
	平成23年度(2011)		平成23年度(2011)	
	全開設	評価対象	人数	構成比
基礎科目	5	5	562	10%
共通科目:人文系	5	5	470	8%
共通科目:社会系	2	2	160	3%
共通科目:自然系	3	3	275	5%
共通科目:外国語	4	4	339	6%
生活と福祉	8	8	886	16%
心理と教育	9	9	860	15%
社会と産業	4	4	439	8%
人間と文化	5	5	642	11%
自然と環境	3	3	337	6%
総合科目	6	6	671	12%
全体	54	54	5,641	100%

【大学院】

プログラム	科目数		有効回答	
	平成23年度(2011)		平成23年度(2011)	
	全開設	評価対象	人数	構成比
生活健康科学	2	2	118	13%
人間発達科学	3	3	161	18%
臨床心理学	4	4	280	31%
社会経営科学	3	3	160	18%
文化情報学	2	2	111	12%
自然環境科学	1	1	73	8%
全体	15	15	903	100%

※構成比は、四捨五入しているため、各項目を合計しても100%にならない場合がある。

調査票の配布は、これら 69 科目の全受講登録者を母集団とし、学部科目では各 250 名（登録者がそれ未満の科目は全数）、大学院科目では各 200 名（同）をそれぞれ無作為抽出して得られた学部 13,031 名、大学院 2,016 名、計 15,047 名（いずれも延べ人数）に、回答すべき科目を予め指定した上で、郵送により行なった。

また、回収も郵送により行ない、調査期間は第 1 学期単位認定試験終了後の 8 月下旬から 9 月中旬までの 1 ヶ月とした。有効回答数は学部 5,641 票、大学院 903 票、計 6,544 票であった。無記名調査ながら、有効回答率は学部 43.3%、大学院 44.8%、全体で 43.5% と低めであった（表 1-2 参照）。回収率の低さの要因はさまざまに考えられるが、昨年度と同様に科目登録者数や調査日程の関係から単位認定試験未受験者に対しても調査票を配付していることが回収率の低さの大きな要因の一つと思われる。なお、昨年度の有効回答率（2010 年度新規開設科目 学部 39.5%、大学院 48.2%、全体 40.8%）と比較すると、学部については有効回答率が上り、大学院については下がっているが、全体では有効回答率は上がっている。今後も客観的な調査結果を得られるためにも回収率を高めていくために調査日程などの工夫が必要であろう。

表 1 - 2 調査対象者数および有効回答率

	23年度(2011年新規開設科目)			22年度(2010年新規開設科目)			21年度(2009年新規開設科目)		
	対象者数	有効 回答者数	有効 回答率	対象者数	有効 回答者数	有効 回答率	対象者数	有効 回答者数	有効 回答率
学部	13,031	5,641	43.3%	12,403	4,900	39.5%	10,882	3,836	35.3%
大学院	2,016	903	44.8%	2,217	1,069	48.2%	2,826	1,184	41.9%
計	15,047	6,544	43.5%	14,620	5,969	40.8%	13,708	5,020	36.6%

#### I - 4. 時系列分析

報告書の一部に第 5 回目（平成 21 年度）以降の調査との比較を掲載した。

本調査は原則として開講 1 年目の科目を対象とするため、調査対象科目は年度ごとに異なっているという事情がある。本来ならば、時系列分析は同一の科目同士あるいは同一科目から構成されるコース（プログラム）を比較対象としてこそ、その意義が発揮されるであろう。しかし、対象科目は異なるとはいえ、年度ごとに開設された放送授業の全体的な傾向及びその方向性を見る上では参考になると思われる。

## I-5. 回答者の特性

---

### (1) 回答者の属性分布と母集団との比較

回答者の属性分布は、次頁の表 1-3 に示したとおりである。母集団（全受講登録者）の分布と比較すると、学部は、性別では男性、年齢階層では 50 歳以上、学生種では全科履修生と科目履修生の比率が母集団と比べやや高くなっている。一方、大学院は、性別では男性、年齢階層では 60 歳以上、学生種では修士全科生の比率が高くなっている。それぞれの属性別分析をする場合には問題はないが、全体の結果等を見る場合には、このような属性の偏りも考慮する必要があるだろう。なお、ここで比率が高いからと言っても、それらの属性の回答率が高いことをただちに意味するものではないので注意していただきたい。たとえば、たまたま今回は男性の比率が多い科目が対象になったため、男性に偏った属性分布になっているということもありうるからである。

表 1 - 3 回答者の属性分布

## 【学部】

		23年度(2011年新規開設科目)			22年度(2010年新規開設科目)			21年度(2009年新規開設科目)		
		回答者	母集団 (全受講 登録者)	母集団と の差	回答者	母集団 (全受講 登録者)	母集団と の差	回答者	母集団 (全受講 登録者)	母集団と の差
性別	男性	44.5%	38.3%	6.1%	47.3%	38.7%	8.6%	47.6%	44.6%	3.0%
	女性	53.5%	61.7%	▲8.1%	50.1%	61.3%	▲11.2%	49.0%	55.4%	▲6.4%
年齢階層別	19歳以下	0.6%	0.7%	▲0.1%	0.4%	1.1%	▲0.7%	0.4%	1.5%	▲1.1%
	20～29歳	8.0%	12.3%	▲4.3%	8.4%	13.8%	▲5.4%	8.2%	20.6%	▲12.4%
	30～39歳	16.0%	23.3%	▲7.3%	17.6%	27.2%	▲9.6%	16.0%	21.2%	▲5.2%
	40～49歳	19.8%	24.7%	▲4.9%	21.9%	27.0%	▲5.1%	20.6%	22.3%	▲1.7%
	50～59歳	17.6%	17.3%	0.3%	18.4%	15.5%	2.9%	18.5%	16.3%	2.2%
	60～69歳	25.8%	15.5%	10.3%	22.5%	11.1%	11.4%	24.3%	13.4%	10.9%
	70歳以上	11.7%	6.2%	5.5%	10.2%	4.3%	5.9%	11.5%	4.9%	6.6%
学生種別	全科履修生	69.6%	69.7%	▲0.1%	63.8%	61.2%	2.6%	66.7%	80.8%	▲14.1%
	選科履修生	18.8%	21.9%	▲3.1%	21.8%	30.9%	▲9.1%	19.5%	16.7%	2.8%
	科目履修生	6.9%	8.4%	▲1.5%	9.7%	7.9%	1.8%	12.1%	2.5%	9.6%
人数(N)		5,641	-	-	4,900	-	-	3,836	-	-

※回答者については、無回答があるため、合計は100%にはならない。

## 【大学院】

		23年度(2011年新規開設科目)			22年度(2010年新規開設科目)			21年度(2009年新規開設科目)		
		回答者	母集団 (全受講 登録者)	母集団と の差	回答者	母集団 (全受講 登録者)	母集団と の差	回答者	母集団 (全受講 登録者)	母集団と の差
性別	男性	53.3%	55.3%	▲2.0%	60.1%	58.1%	2.0%	60.8%	59.5%	1.3%
	女性	39.4%	44.7%	▲5.3%	36.9%	41.9%	▲5.0%	35.4%	40.5%	▲5.1%
年齢階層別	20～29歳	4.3%	6.2%	▲1.9%	4.3%	5.4%	▲1.1%	3.0%	4.9%	▲1.9%
	30～39歳	13.8%	17.4%	▲3.5%	13.8%	17.3%	▲3.5%	13.8%	18.2%	▲4.4%
	40～49歳	23.3%	26.5%	▲3.2%	23.9%	27.8%	▲3.9%	25.2%	28.9%	▲3.7%
	50～59歳	22.8%	26.3%	▲3.4%	23.9%	26.2%	▲2.3%	26.9%	27.2%	▲0.3%
	60～69歳	20.8%	17.8%	3.0%	23.6%	17.5%	6.1%	22.1%	14.6%	7.5%
	70歳以上	9.1%	5.9%	3.2%	9.5%	5.8%	3.7%	8.4%	6.2%	2.2%
学生種別	修士全科生	22.9%	18.3%	4.6%	27.9%	22.0%	5.9%	30.7%	21.1%	9.6%
	修士選科生	60.4%	72.6%	▲12.3%	59.1%	68.2%	▲9.1%	59.0%	71.4%	▲12.4%
	修士科目生	8.2%	9.0%	▲0.8%	8.8%	9.8%	▲1.0%	8.9%	7.5%	1.4%
人数(N)		903	-	-	1,069	-	-	1,184	-	-

※回答者については、無回答があるため、合計は100%にはならない。

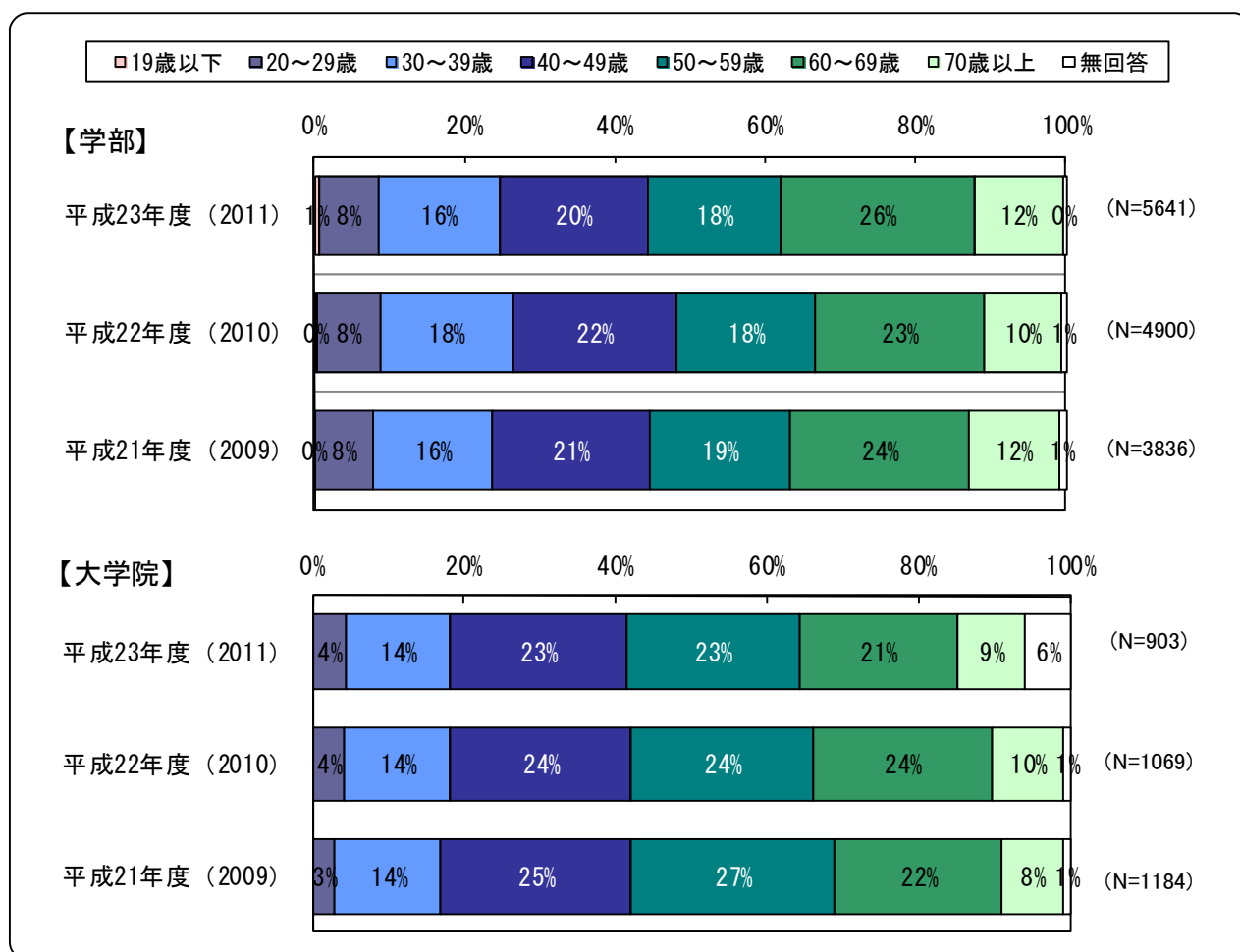
以下、今回の評価結果を分析する上で、回答者の特性からみて留意すべき点を明らかにするために、回答者の属性についてさらに見ていくことにする。

## (2) 年齢階層別回答者（2011年新規開設科目）

年齢階層別に今年度（2011年新規開設科目）の回答者の分布を見ると（図1-1）、学部では30代～60代が中心であり、60歳代が最も多く26%、次いで40歳代が20%、50歳代が18%、30歳代が16%を占める。時系列で見ると40歳未満の割合が増加し、50歳以上がやや減少傾向にある。

大学院では、40歳代～60歳代の割合が多く、40歳代から50歳代がそれぞれ24%と最も多く、次いで60歳代が21%、30歳代14%、70歳以上10%となっている。また、これまでの調査と比べると、無回答が6%と増えており有効回答の割合が減っている。

図1-1 年齢階層別回答者

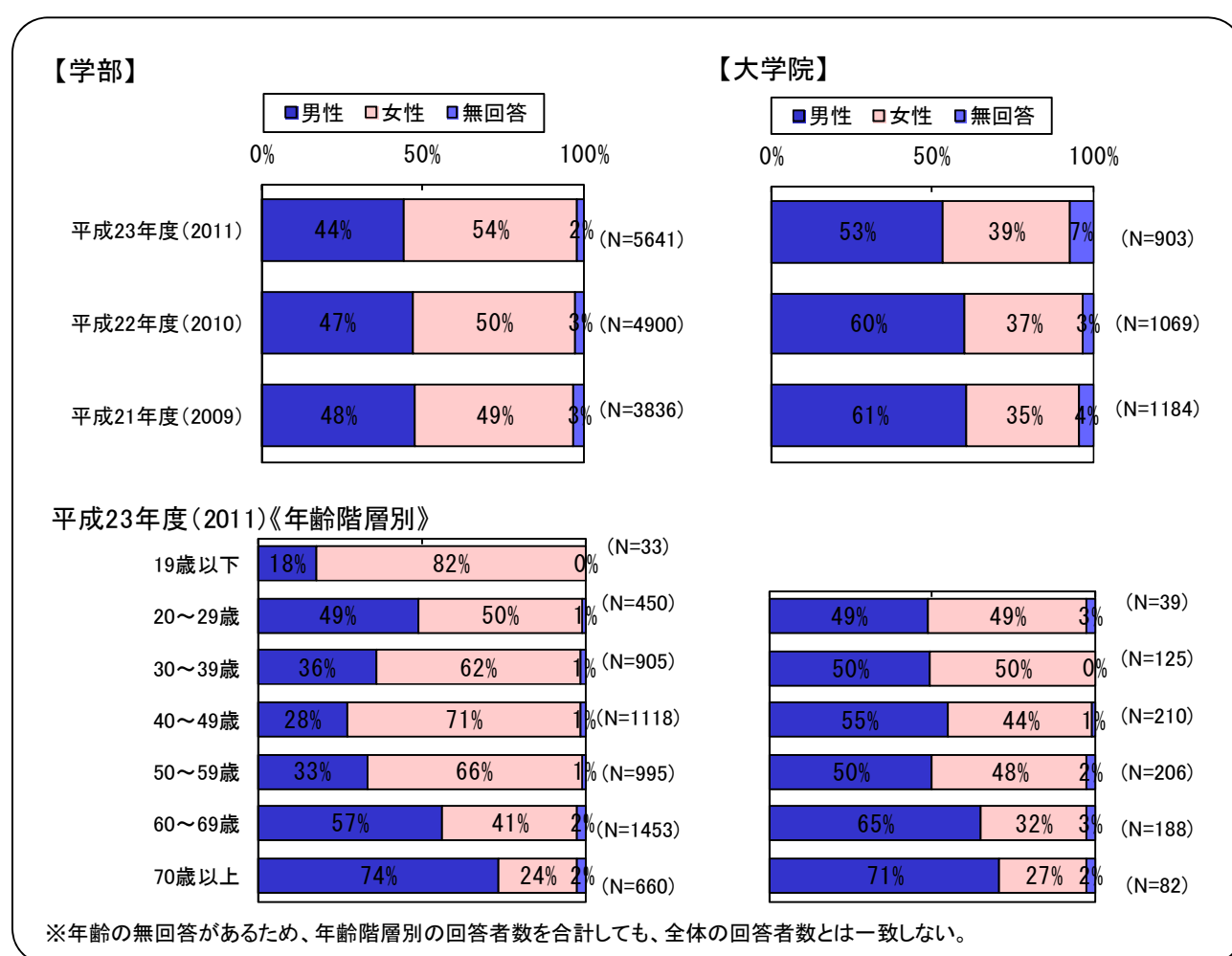


### (3) 性別回答者（2011年新規開設科目）

回答者の性別（図1-2）は、学部では「男性」44%、「女性」54%となっており、昨年までの調査に比べると「女性」の割合がやや増えている。また50歳代までは「女性」が多く、60歳以上では逆に「男性」が多くなっている。

大学院は、「男性」53%、「女性」39%と「男性」の比率が高い。大学院でも昨年までの調査と比べると「女性」の割合がやや増えている。大学院の場合は、20歳代～30歳代では「男性」と「女性」の割合は同じだが40歳代～70歳以上では「男性」の割合が多くなっている。

図1-2 性別回答者



### (4) 職業別回答者（2011年新規開設科目）

職業別に回答者の分布を見ると（図1-3）、学部では「無職」が24%と最も多く、次いで「会社員」15%、「看護師等」及び「家事専業」11%、「パート・アルバイト」10%となっており、有職者（パート・アルバイト含む）は全体の6～7割程度を占めている。

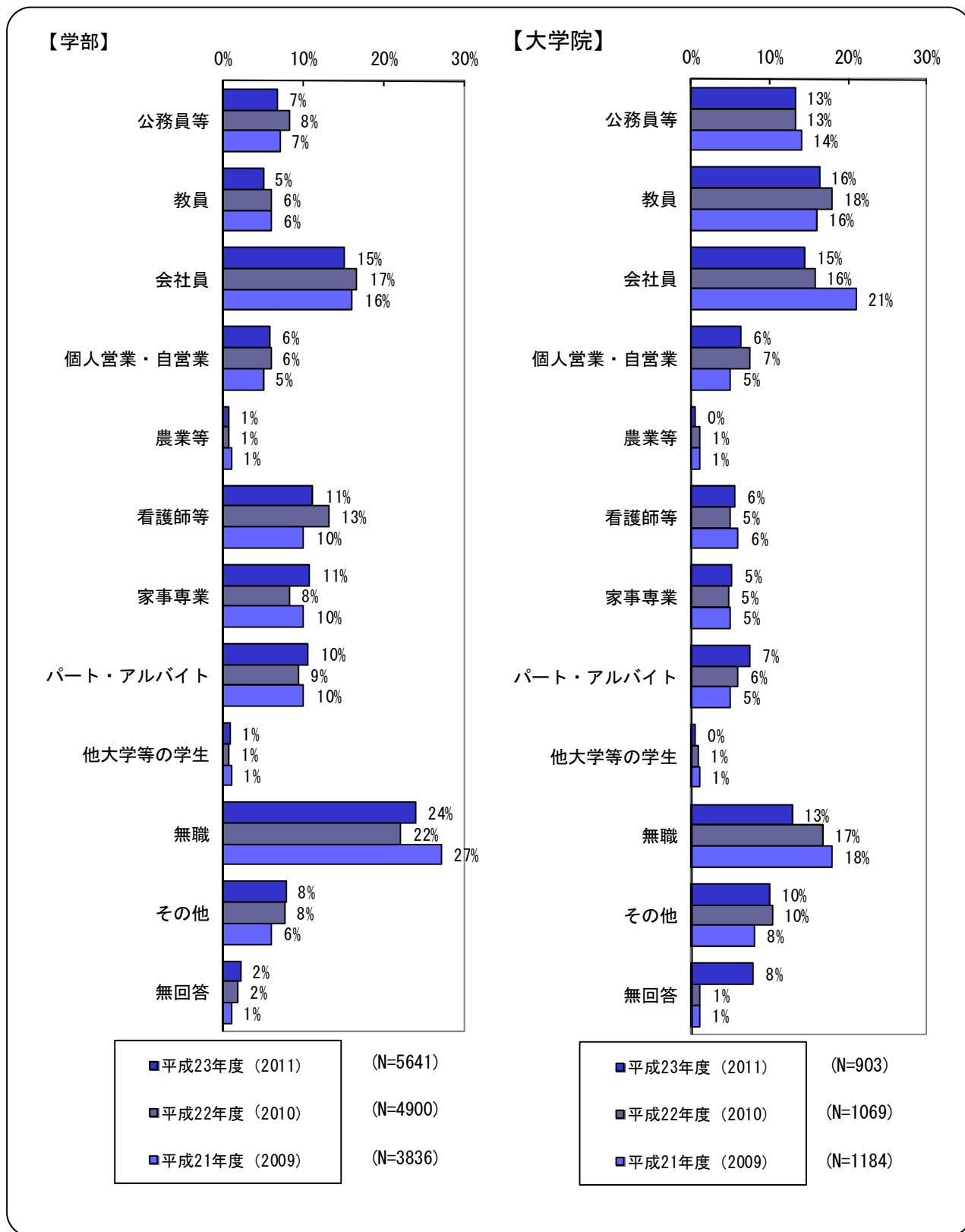


時系列で見ると、昨年よりも「無職」の割合がやや増加している。

一方、大学院では、「無職」13%で、有職者で多かったのは「教員」が16%と最も多く、次いで「会社員」15%、「公務員等」13%となっており、有職者は7~8割程度を占める。

なお、ここでの年齢別、性別、職業別の回答者の割合は、調査対象年度の科目による相違も影響しているため、放送大学の全学生の構成や時系列変化とは必ずしも同じではないことに注意されたい。

図 1 - 3 職業別回答者

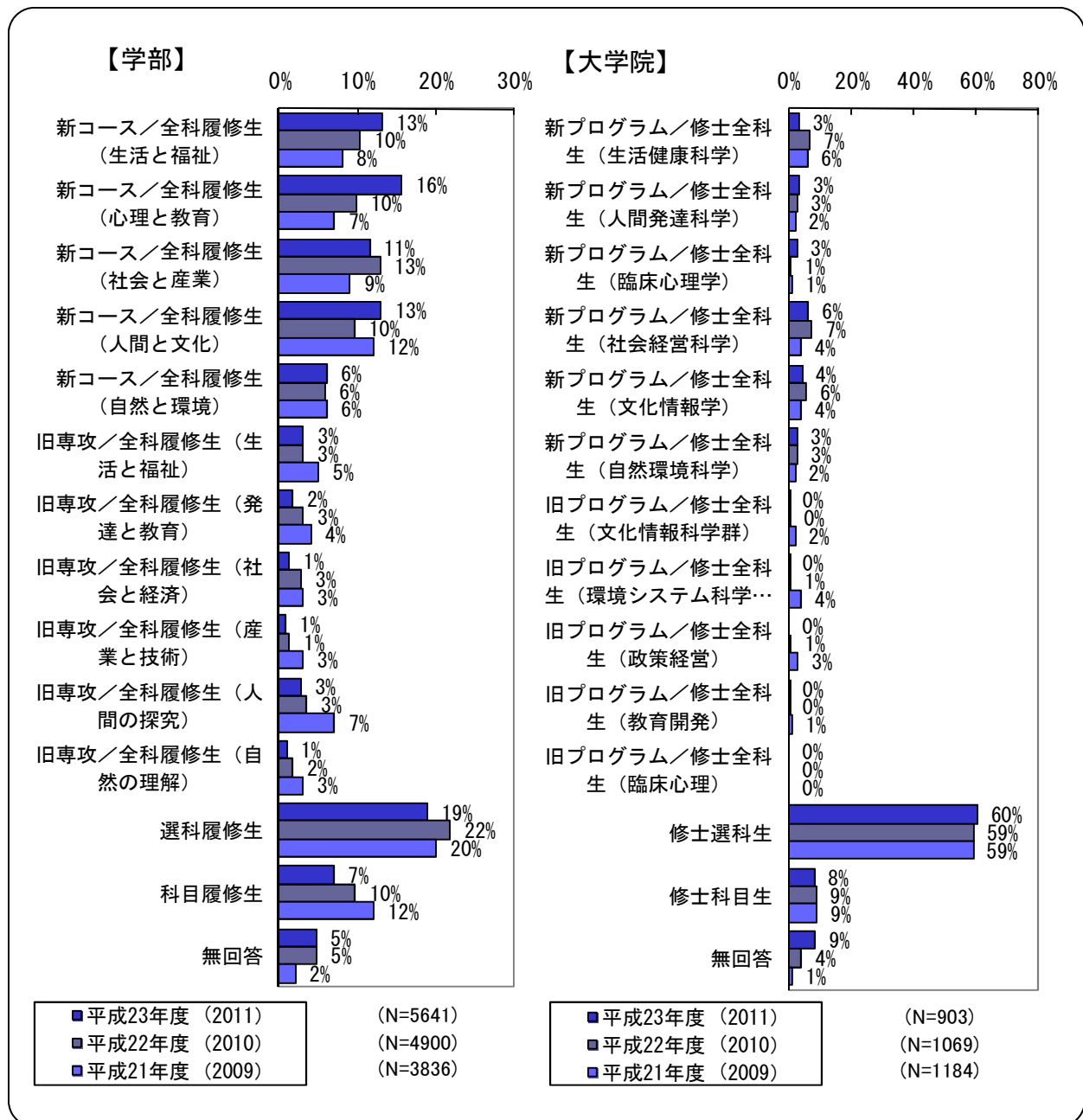


(5) 所属コース（プログラム）別回答者（2011年新規開設科目）

次に学生の所属コース（プログラム）別の分布を見ると（図1-4）、学部では全科履修生が70%を占め、そのうち新コース所属が59%、旧専攻所属が10%となっている。全科履修生の中では、新コース所属の「心理と教育」が16%とやや多くなっている。

大学院では修士選科生が60%を占めており、修士全科生が23%、修士科目生が8%となっている。修士全科生の所属プログラムはかなりばらついている。

図1-4 学生の所属コース（プログラム）別回答者



## I-6. 評価結果の提供と公表

### I-6-1. 評価結果の提供

本授業評価は、先にも掲げたように「個別授業科目の改善支援」「カリキュラム全体の改善支援」「認証評価に関わる資料提供」という三つの大きな目的のもとに企画され、実施された。そのことを勘案した授業評価小委員会（以下「小委員会」という。）での検討の結果、得られたデータは次のように資料提供されることとなった。

- (1) 当該科目を担当した主任講師への提供……担当科目の詳細な評価結果を主任講師に提供する。担当科目の評価結果には、担当科目と比較可能な全科目平均等及び自由記述部分が含まれる。
- (2) コース主任及びプログラム・コーディネーターへの提供……全てのコース・プログラムに対して、その関係する資料一式を提供する。
- (3) 教授会及び教育課程編成委員会等関連委員会への提供……大学全体のカリキュラム編成に関しての検討や意志決定に際しての資料とするため、教授会及び各委員会に提供する。

実際に主任講師等へ提供した個別科目に関する資料の内容は、13頁～18頁の「提供資料サンプル」に示した通りである。

### I-6-2. 評価結果の公表

さて、収集された授業評価の結果を授業改善の目的で用いるのはもちろんであるが、それに加えて、現在では大学の社会的責務として評価結果の公表が強く求められているところである。小委員会では、その問題に関しても詳細に検討した。その結果、以下のような合意に達し、それを基本的な方針とすることが決められた。

#### (1) 公表への基本姿勢

授業評価の結果については、基本的にできる限り広く社会に提示することが必要である。放送大学に課せられた社会的使命、教育体系全体における位置付け、そして納税者国民への説明責任等を勘案するならば、言うまでもなくそれが理の当然である。そこで、当面は以下に示す形態で公表していくこととする。

#### (2) 公表する内容

以下のデータに関して公表することとする。

- ① 調査の概要 : 授業評価の目的、方法、実施時期、調査対象者数、調査票等
- ② 回答者の概要 : 基本属性別に見た有効回答者数
- ③ 評点平均 : 全対象科目を総計した結果について、回答者の属性別、科目の分野別、メディア別等の各設問の評点平均値
- ④ 自由記述の概略 : 特徴的・代表的な記述

### (3) 公表の方法

(2)の内容について、放送大学ホームページ及び広報誌「On Air」紙上等で適宜公表することを基本とする。

# 提供資料サンプル【学部】

学部 平成23年度学生による授業評価の調査結果【2011年度新規開設科目】(単純集計)

コース・プログラム等 ○○○○

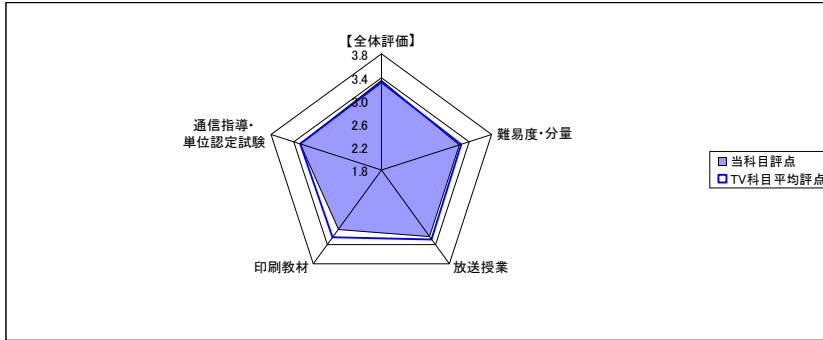
科目名(コード): ○○○○○○(TV) (○○○○) 教員氏名: ○○○○

(注) 平均評点は、「あてはまる:4点」「ややあてはまる:3点」「あまりあてはまらない:2点」「あてはまらない:1点」として算出。

## 1. 取組み姿勢

	設問内容	有効回答	回答割合				平均評点			【当科目評点と、TV科目平均評点との差】
			あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	当科目評点	全体平均評点	TV科目平均評点	
取組み姿勢	A-1 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ	90	42%	40%	14%	3%	3.21	3.26	3.30	-0.09
	A-2 放送授業を十分に視聴した	90	22%	46%	17%	16%	2.74	2.78	2.88	-0.13
	A-3 印刷教材を熱心に学習した	89	39%	47%	10%	3%	3.22	3.32	3.31	-0.09

## 2. 授業評価



	設問内容	有効回答	回答割合				平均評点			【当科目評点と、TV科目平均評点との差】
			あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	当科目評点	全体平均評点	TV科目平均評点	
難易度・分量	B-1 放送授業の難易度は適切だった	86	40%	48%	8%	5%	3.22	3.20	3.23	-0.01
	B-2 放送授業の内容は適切な分量であった	85	34%	55%	6%	5%	3.19	3.20	3.23	-0.04
	B-3 印刷教材の難易度は適切だった	89	35%	55%	9%	1%	3.24	3.24	3.24	-0.01
	B-4 印刷教材の内容は適切な分量であった	88	32%	58%	9%	1%	3.20	3.26	3.27	-0.06
放送授業	B-5 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	86	47%	41%	8%	5%	3.29	3.20	3.27	-0.06
	B-6 講師の熱意が十分に伝わった	85	61%	31%	5%	4%	3.49	3.34	3.39	0.02
	B-7 放送授業は教材としてよくできていると感じた	84	33%	52%	11%	4%	3.15	3.16	3.23	0.10
	B-8 テレビの特性が十分に生かされていると感じた	85	25%	49%	21%	5%	2.94	3.14	3.22	-0.08
印刷教材	B-9 印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	86	27%	56%	13%	5%	3.05	3.25	3.28	-0.27
	B-10 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	89	37%	48%	12%	2%	3.20	3.21	3.21	-0.23
	B-11 図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った	90	19%	56%	20%	6%	2.88	3.08	3.17	-0.01
	B-12 印刷教材は教材としてよくできていると感じた	90	31%	50%	17%	2%	3.10	3.25	3.26	-0.29
通信指導・単位認定試験	B-13 通信指導のコメントは、納得のいくものだった	88	45%	41%	11%	2%	3.30	3.30	3.29	-0.16
	B-14 通信指導は学習内容の理解に役立った	88	42%	50%	6%	2%	3.32	3.35	3.35	0.01
	B-15 単位認定試験の問題は科目内容の理解度を高めるのにふさわしい内容だった	84	37%	48%	12%	4%	3.18	3.17	3.17	-0.03
全体評価	B-16 授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った	90	43%	41%	12%	3%	3.24	3.24	3.28	-0.03
	B-17 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	90	53%	42%	2%	2%	3.47	3.32	3.36	0.11
	B-18 新しい知識が身につく視野が広がった	90	51%	40%	7%	2%	3.40	3.45	3.46	-0.06
	B-19 この科目の内容を全体としてよく理解できた	90	36%	54%	7%	3%	3.22	3.14	3.17	0.05
	B-20 この科目の内容には全体として満足している	89	48%	43%	7%	2%	3.37	3.24	3.28	0.09

## 3. 回答者の属性 (単位:人)

学生種別	全科履修生(新コース所属)					全科履修生(旧専攻所属)					全科履修生【小計】	選科履修生	科目履修生	無回答	計																																															
	生活と福祉	心理と教育	社会と産業	人間と文化	自然と環境	生活と福祉	発達と教育	社会と経済	産業と技術	人間の探求						自然の理解																																														
	5	9	9	8	29	1	0	0	1	0	1	63	17	6	5	91																																														
性別	男性					女性					無回答					計																																														
	60					30					1					91																																														
年齢	19歳以下					20~29歳					30~39歳					40~49歳					50~59歳					60~69歳					70歳以上					無回答		計																								
	1					11					25					11					17					16					9					1		91																								
職業	公務員等					教員					会社員					個人営業・自営業					農業等					看護師等					家事専業					パート・アルバイト					他大学の学生					無職					その他					無回答					計	
	11					2					26					6					1					13					5					7					0					15					5					0					91	
通信指導・単位認定試験	単位認定試験 受験					通信指導 未受検					無回答					計					単位認定のための学習方法					ほとんど放送教材の学習だけで臨んだ					ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ					放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ					無回答					計																
	79					8					4					0					91		1					26					58					6					91																			



Ⅱ. 次の点について、ご自由にお書きください。

- (1) この科目を受講してよかったと思う点をお書きください。

日常生活がいかに社会と関わりをもっているか、経済や政治や法律など等、広く深く考える手がかりが得られ、有意義な講義だった。

- (2) この科目を受講して改善すべきだと感じた点をお書きください。

説明が哲学的で平易な言葉ではなかったのでやや難解であったので、初学者でも理解できるように注釈など工夫が必要に思う。引っ掛け問題の様な通信指導問題や単位認定試験問題は何を意図しているか分からず、本質的な理解を試しているとは思えず、検討の余地あり。

- (3) この科目に限らず、本学の教育内容や教育方法等についてご意見やご感想があれば、どんなことでも結構ですので、ご自由にお書きください。

私は卒業するのに十年かかりました。病気、入院でも先生方のご指導で卒業することが出来ました。卒業論文のご指導、今も感謝しております。先生は年賀状を毎年下さって励まして下さいました。本当に大学に感謝しております。

Ⅲ. この科目の通信指導と単位認定試験についてお答えください。(該当する番号に○を付けてください。)

1. 通信指導を提出し、単位認定試験を受験した。
2. 通信指導を提出したが、単位認定試験は受験しなかった。
3. 通信指導を提出しなかった。

Ⅳ. あなたご自身についてお答えください。(該当する番号にそれぞれ○を付けてください。)

(1) 学生種別	[全科履修生 新コース所属の方] 1. 生活と福祉 2. 心理と教育 3. 社会と産業 4. 人間と文化 5. 自然と環境 [全科履修生 旧専攻所属の方] 6. 生活と福祉 7. 発達と教育 8. 社会と経済 9. 産業と技術 10. 人間の探究 11. 自然の理解 [選科履修生・科目履修生] 12. 選科履修生 13. 科目履修生
(2) 性別	1. 男性 2. 女性
(3) 年齢	1. 19歳以下 2. 20～29歳 3. 30～39歳 4. 40～49歳 5. 50～59歳 6. 60～69歳 7. 70歳以上
(4) 職業	1. 公務員等 2. 教員 3. 会社員 4. 個人営業・自営業 5. 農業等 6. 看護師等 7. 家事専業 8. パート・アルバイト 9. 他大学等の学生 10. 無職 11. その他 ( )

どうもありがとうございました。

# 提供資料サンプル【大学院】

大学院

平成23年度学生による授業評価の調査結果【2011年度新規開設科目】(単純集計)

コース・プログラム等

○○○○

科目名(ロード):

○○○○○○

( ○○○○ )

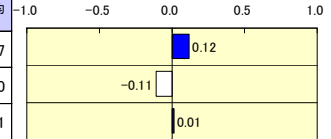
教員氏名: ○○○○

(注) 平均評点は、「あてはまる:4点」「ややあてはまる:3点」「あまりあてはまらない:2点」「あてはまらない:1点」として算出。

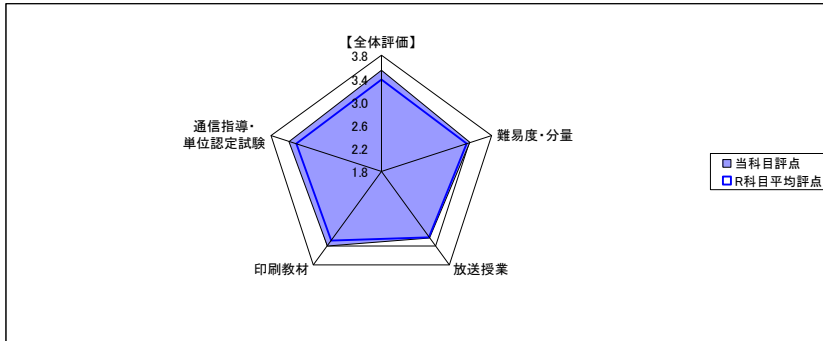
## 1. 取組み姿勢

	設問内容	有効回答	回答割合				平均評点		
			あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	当科目評点	全体平均評点	R科目平均評点
取組姿勢	A-1 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ	49	51%	47%	2%	0%	3.49	3.36	3.37
	A-2 放送授業を十分に視聴した	49	29%	35%	14%	22%	2.69	2.84	2.80
	A-3 印刷教材を熱心に学習した	49	51%	43%	4%	2%	3.43	3.38	3.41

【当科目評点と、R科目平均評点との差】

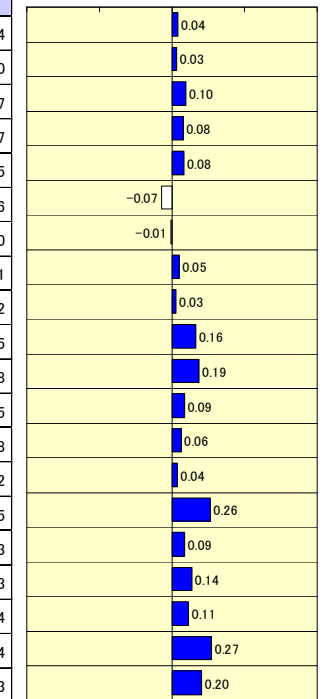


## 2. 授業評価



【当科目評点と、R科目平均評点との差】

	設問内容	有効回答	回答割合				平均評点		
			あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	当科目評点	全体平均評点	R科目平均評点
難易度・分量	B-1 放送授業の難易度は適切だった	45	51%	38%	9%	2%	3.38	3.35	3.34
	B-2 放送授業の内容は適切な分量であった	45	47%	42%	9%	2%	3.33	3.32	3.30
	B-3 印刷教材の難易度は適切だった	49	49%	49%	2%	0%	3.47	3.37	3.37
	B-4 印刷教材の内容は適切な分量であった	49	53%	39%	8%	0%	3.45	3.35	3.37
放送授業	B-5 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	52	56%	31%	4%	10%	3.33	3.28	3.25
	B-6 講師の熱意が十分に伝わった	49	55%	29%	6%	10%	3.29	3.40	3.36
	B-7 放送授業は教材としてよくできていると感じた	48	50%	31%	6%	13%	3.19	3.26	3.20
	B-8 映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	49	35%	47%	8%	10%	3.06	3.13	3.01
印刷教材	B-9 印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった	52	52%	38%	2%	8%	3.35	3.31	3.32
	B-10 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった	53	57%	40%	2%	2%	3.51	3.33	3.35
	B-11 図表や写真などが適切に用いられ内容の理解に役立った	57	42%	44%	12%	2%	3.26	3.15	3.08
	B-12 印刷教材は教材としてよくできていると感じた	53	47%	51%	0%	2%	3.43	3.34	3.35
通信指導・単位認定	B-13 通信指導のコメントは、納得のいくものだった	52	54%	38%	6%	2%	3.44	3.33	3.38
	B-14 通信指導は学習内容の理解に役立った	53	55%	38%	6%	2%	3.45	3.37	3.42
	B-15 単位認定試験の問題は科目内容の理解度ををはかるのにふさわしい内容だった	55	62%	31%	4%	4%	3.51	3.21	3.25
全体評価	B-16 授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った	55	44%	55%	2%	0%	3.42	3.32	3.33
	B-17 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	49	57%	43%	0%	0%	3.57	3.44	3.43
	B-18 新しい知識が身につく視野が広がった	49	65%	35%	0%	0%	3.65	3.55	3.54
	B-19 この科目の内容を全体としてよく理解できた	49	53%	45%	2%	0%	3.51	3.23	3.24
	B-20 この科目の内容には全体として満足している	49	57%	39%	4%	0%	3.53	3.33	3.33



## 3. 回答者の属性 (単位:人)

学生種別	修士全科生(新プログラム所属)										修士全科生(旧プログラム所属)					計												
	生活健康科学	人間発達科学	臨床心理学	社会経営科学	文化情報科学	自然環境科学	文化情報科学群	環境システム科学群	政策経営	教育開発	臨床心理	修士全科生【小計】	修士選科生	修士科日生	無回答													
	8	0	0	3	1	1	0	0	0	0	0	13	27	2	17	59												
性別	男性		女性		無回答		計		年齢		19歳以下		20~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60~69歳		70歳以上		無回答		計	
	21	23	15	59	0	0	5	10	17	8	5	14	59															
職業	公務員等		教員		会社員		個人営業・自営業		農業等		看護師等		家事専業		パート・アルバイト		他大学等の学生		無職		その他		無回答		計			
	11	4	9	6	0	4	1	0	0	5	2	17	59															
通信指導・単位認定試験	単位認定試験受検		通信指導未提出		無回答		計		単位認定のための学習方法		ほとんど放送教材の学習だけで臨んだ		ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ		放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ		無回答		計									
	41	3	0	15	59	3	19	22	15	59																		



平成23年度学生による授業評価の調査結果【2011年度新規開設科目】（学生種別、通信指導提出状況・単位認定試験出席状況別クロス集計）【全体一覧】

大学院	A-1 全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ												A-2 放送授業を十分に視聴した												A-3 印刷教材を熱心に学習した														
	回答数			選択肢別の回答割合・回答数			肯定評価			平均			回答数			選択肢別の回答割合・回答数			肯定評価			平均			回答数			選択肢別の回答割合・回答数			肯定評価			平均					
	4	3	2	1	無回答	4	3	2	1	無回答	4	3	2	1	無回答	4	3	2	1	無回答	4	3	2	1	無回答	4	3	2	1	無回答	4	3	2	1	無回答	4	3	2	1
合計(全体)	903	47%	36%	9%	2%	5%	84%	3.36	903	29%	32%	22%	11%	6%	62%	2.84	903	48%	38%	8%	2%	5%	85%	3.38															
生活健康科学	30	60%	37%	3%	0%	0%	97%	3.57	30	23%	30%	20%	27%	0%	53%	2.50	30	77%	17%	7%	0%	0%	83%	3.70															
人間発達科学	31	65%	26%	7%	0%	3%	90%	3.60	31	29%	42%	16%	10%	3%	71%	2.93	31	74%	13%	10%	0%	3%	87%	3.67															
臨床心理学	24	50%	46%	4%	0%	0%	96%	3.46	24	25%	54%	21%	0%	0%	79%	3.04	24	46%	46%	8%	0%	0%	92%	3.38															
社会経営科学	57	63%	28%	9%	0%	0%	91%	3.54	53	38%	45%	17%	0%	0%	83%	3.21	57	56%	35%	9%	0%	0%	91%	3.47															
文化情報科学	38	53%	37%	3%	8%	0%	90%	3.34	38	34%	34%	11%	21%	0%	68%	2.82	38	58%	26%	8%	8%	0%	84%	3.34															
自然環境科学	24	38%	54%	4%	0%	4%	92%	3.35	24	21%	50%	21%	4%	4%	71%	2.91	24	25%	50%	17%	4%	4%	75%	3.00															
文化情報科学	1	0%	100%	0%	0%	0%	100%	3.00	1	0%	0%	100%	0%	0%	0%	2.00	1	0%	100%	0%	0%	0%	100%	3.00															
環境システム科学群	1	100%	0%	0%	0%	0%	100%	4.00	1	0%	100%	0%	0%	0%	100%	3.00	1	0%	100%	0%	0%	0%	100%	3.00															
政策経営	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0.00	0	0%	0%	0%	0%	0%	0.00	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0.00																
教育開発	1	0%	0%	100%	0%	0%	0%	2.00	1	0%	0%	100%	0%	0%	0%	2.00	1	0%	0%	100%	0%	0%	0%	2.00															
臨床心理	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0.00	0	0%	0%	0%	0%	0%	0.00	0	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0.00																
修士全科目【小計】	207	56%	36%	6%	1%	1%	92%	3.48	207	29%	41%	17%	12%	1%	70%	2.88	207	57%	31%	10%	2%	1%	87%	3.43															
修士選科目	545	47%	39%	10%	2%	2%	87%	3.35	545	31%	33%	23%	10%	2%	65%	2.87	545	46%	43%	8%	2%	1%	89%	3.35															
修士科目生	74	45%	30%	20%	3%	3%	74%	3.19	74	26%	19%	31%	18%	7%	45%	2.57	74	57%	31%	11%	0%	1%	88%	3.47															
単位試験認定試験・通信指導未提出	750	52%	38%	8%	1%	1%	90%	3.41	750	31%	35%	22%	11%	1%	66%	2.86	750	52%	38%	8%	2%	1%	90%	3.42															
受検	387	287	61	10	5				387	287	61	10	5				387	287	61	10	5																		
未受検	56	29%	41%	25%	0%	5%	70%	3.04	56	27%	27%	36%	5%	5%	54%	2.79	56	32%	52%	13%	0%	4%	84%	3.20															
通信指導未提出	27	19%	26%	30%	15%	11%	44%	2.54	27	15%	26%	26%	33%	0%	41%	2.22	27	19%	37%	26%	15%	4%	56%	2.62															

(注) 1. 「選択肢別の回答割合」は、少数点以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合もある。  
 2. 「肯定評価」は、調査票の選択肢「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計である。  
 3. 評価については、選択肢「あてはまる」4点、「ややあてはまる」3点、「あまりあてはまらない」2点、「あてはまらない」1点として算出した。

II. 次の点について、ご自由にお書きください。

(1) この科目を受講してよかったと思う点をお書きください。

1つ1つを深く考えることなく生活していることが多い。今回の受講で、例えば1つの生活用製品について、深く考え、理解する過程があった。生活する中で本来なら、きちんと向い合うことで、生活の方法を理解し、生活することができる。生活スタイルの形成に役立った。

(2) この科目を受講して改善すべきだと感じた点をお書きください。

それぞれの研究の立場からの講義であり、1つの科目として行う事は興味深かったが、全体としての統一した目的がいま一歩見出せなかった。全てではないが、関連科目の寄せ集めの感も否定できない。主題に関する双方のアプローチの違いの意味と課題をより深く考察できる為の工夫が必要と感じた。

(3) この科目に限らず、本学の教育内容や教育方法等についてご意見やご感想があれば、どんなことでも結構ですので、ご自由にお書きください。

TVでの学習のインターネット配信が、少しずつ進んでいる点は、とてもありがたい。大学での自習室などのサポートも万全で、意欲を持てば、学習できる場を十分つくってくれていると思っている。

III. この科目の通信指導と単位認定試験についてお答えください。(該当する番号に○を付けてください。)

1. 通信指導を提出し、単位認定試験を受験した。
2. 通信指導を提出したが、単位認定試験は受験しなかった。
3. 通信指導を提出しなかった。

IV. あなたご自身についてお答えください。(該当する番号にそれぞれ○を付けてください。)

(1) 学生種別	〔修士全科生 新プログラム所属の方〕 1. 生活健康科学 2. 人間発達科学 3. 臨床心理学 4. 社会経営科学 5. 文化情報学 6. 自然環境科学 〔修士全科生 旧プログラム所属の方〕 7. 文化情報科学群 8. 環境システム科学群 9. 政策経営 10. 教育開発 11. 臨床心理 〔修士選科生・修士科目生〕 12. 修士選科生 13. 修士科目生
(2) 性別	1. 男性 2. 女性
(3) 年齢	1. 19歳以下 2. 20～29歳 3. 30～39歳 4. 40～49歳 5. 50～59歳 6. 60～69歳 7. 70歳以上
(4) 職業	1. 公務員等 2. 教員 3. 会社員 4. 個人営業・自営業 5. 農業等 6. 看護師等 7. 家事専業 8. パート・アルバイト 9. 他大学等の学生 10. 無職 11. その他 ( )

どうもありがとうございました。